

鈴木さんと大橋さんの

ゴルフと地球環境

糖質のない刈り芝から作るバイオエタノール技術を発表してから約6ヶ月が経過しようとしている。この新発想のバイオ技術に多くの人たちが興味を寄せるとともに、期待も膨らんでいる。しかし、ゴルフ好きの鈴木さんと大橋さんが思い描いたゴルフ場関係からの問い合わせが、皆無に等しい。興味を示すのは他の分野ばかりで、ゴルフ好きとしては肩身が狭い。ゴルフ場の未来はあるのかと心配するばかりだ。

撮影：渡部祥勝 photo:Hirokatsu Watabe
文：遠藤毅 text:Tsuyoshi Endo



刈り芝からエタノールが作れる



1：去る5月29日には、国会の政策工房・J-WAYでこの刈り芝から作るバイオエタノール技術の勉強が開催された。
2：バイオエタノールを開発したスタッフの話に真剣に耳を傾ける国会議員の人達。マスコミも多く参加し、視聴していた。
3：研究室では日夜バイオ技術を進歩させるための実験が行われている。刈り芝からエタノールを作る酵素もこれらの実験から生まれた。

ゴルフ場は地域の中に存在しています。ゴルフ場の中に地域があるわけではありません。その地域とゴルフ場が良い関係で共存していつてこそ、楽しいゴルフ社会があり、ゴルフ場が社会に認められる環境が作れるのだと思う。ゴルフが好きだから、そのゴルフができるフィールドを大切にしたい思いから生まれた提案です。

ゴルフ好きが考えた 循環型ゴルフ場経営の提案

として取り上げることを発表しました。その第2世代のバイオエタノールの定義は食物から作らない非食物由来のバイオエタノールとしています。

それは、今お話ししている私達が開発した芝から作るバイオエタノールそのものズバリなのです。このこともあり、国会の勉強会以降にマスコミに取り上げられた7月6日のTV東京系BS-JAPANや7月11日のNHK総合の番組でこの刈り芝から作るバイオエタノールの技術が紹介され、各方面から多くのお問い合わせがありました。

しかし残念なことに、ゴルフ場関係者からの問い合わせはひとつもありませんでした。問い合わせがあるのは地方の公共団体や食品メーカー、産業廃棄物処理業者、農業関係というところだけで、私達の思惑であったゴルフ場の環境を良くしようとしているゴルフ場関係の方からの問い合わせがないのが非常に

残念です。

日本のゴルフ場というのは、非常に閉鎖的という面が少なからずあります。アメリカなどの諸外国のゴルフ場のように、ゴルフ場はゴルフファードだけでなくその地域の住民も含めた社交の場、という環境が成り立たないのではなからず懸念してしまいます。

今までゴルフ場は、環境破壊という悪い面ばかりが取りざたされ、良い面は一切表面化していません。この環境問題がひとつのターニングポイントだと、私達は考えていたのです。そして、この芝から作るバイオエタノールビジネスは環境問題にも貢献して行けるゴルフ場ビジネスとして提案したのです。でも、そのターニングポイントも期待をこごとく打ち砕かれた格好になっています。

そうしている内に、ゴルフ場だけが環境問題から取り残されてしまいます。今後のゴルフ場はそうした社会問題の中でどう

やって生き残っていくのだろうか、と考えさせられてしまうのです。

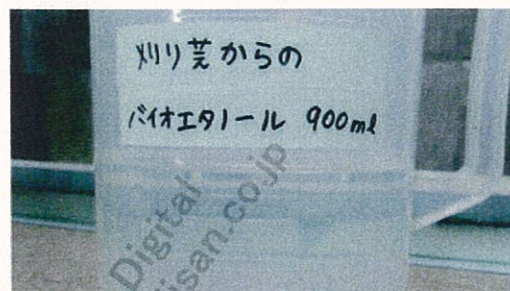
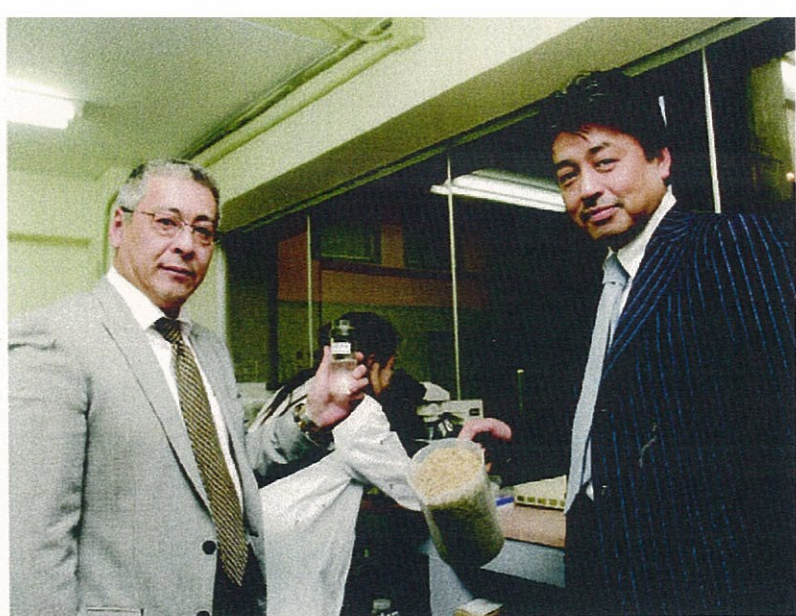
これだけ日本全体が、環境問題を意識し始めている上に、洞爺湖サミットという環境サミットが我が国で開かれました。それにより国民の多くが環境、環境と騒ぎ始めた時代に対して、唯一ゴルフ場だけが環境問題に対して口を閉ざし、まったく理解を示そうとしないのです。

これはゴルフ好きを問わず残念なことだと思います。

本当にゴルフ場に未来はあるのでしょうか？ そのことを危惧しています。ゴルフ場には木もあり、芝や草に覆われたCO₂削減にとって一番大事な部分が豊富にあります。その豊かな場所があるのに、なぜ真剣にCO₂削減を考えないのでしょうか。これまでのゴルフ場に対する環境破壊のイメージを崩して、一歩も二歩も進んだ社会貢献が得られるチャンスなのですから……」

コンティゲ・アイ 鈴木繁三氏

Click! 動画



刈り芝に特殊な酵素を混ぜて糖化し、アルコール発酵させてエタノールを抽出する。そこからできたバイオエタノールは純度が高く、高効率だ。



純度の高いバイオエタノールをガソリンと混合して使用することで、省エネとCO₂の削減に貢献する。混合率は法律で3%までと定められている。



このバイオエタノールビジネスを運営するトゥービー株式会社では、実際の仕事で使用する自動車に抽出したバイオエタノールを混入して走行中。

●ゴルフ場経営の未来が心配だ！
2号に渡りゴルフ好きのコンティゲ・アイの鈴木繁三さんと大橋建設の大橋尚貴さんが提案した、刈り芝から作るバイオエタノールを用いた循環型ゴルフ場経営のビジネスモデルは、各方面でも話題になっている。しかし、ゴルフ好きの二人が思い描

いたゴルフ場の意識改革と社会貢献をしたいという願いはまだ届いていないようだ。最終回の今号は、そのあたりの思いを鈴木氏に語ってもらおうことにした。

「本来このバイオエタノール事業は、自分達が好きなゴルフを通じて社会環境を見て行きながら社会通念にそぐうゴルフ環境

を育て、エコ時代に適したゴルフ場経営を提案したのです。そうしているうちに、5月29日には国会の政策工房・J・WAYで私達のバイオエタノール技術が取り上げられ、その勉強会が開催されました。その勉強会の数日後には、福田首相が第2世代のバイオエタノールを日本国